

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上小小学校】

| | | |
|----------|---|--|
| ⑥ | 次年度への課題と授業改善策 | |
| 知識・技能 | 朝自習「基礎学習の時間」を活用して、通年で国語の書きと計算の基礎問題に取り組んだことで、国語と算数における知識・理解の定着を促すことができた。今後も継続して取り組んでいく。また次年度は、学習アプリ等を活用して、基礎計算能力の定着を目指したい。 | |
| 思考・判断・表現 | 授業で「個で考える時間」を十分に確保し、個別最適化された学習を展開できた。ミライシード「オクリンク」「ムーブノート」を効果的に活用し、学習の理解度を教師側で適宜把握できる場面が増えた。全国学力・学習状況調査の算数「思考力・判断力・表現力」の項目では、全体的により結果が見られた。日々の教育活動の中で、引き続き「個で考える時間」や協同的に考えを深める時間等を確保し、学力の更なる定着を目指す。 | |

| | | |
|----------|--|---|
| ① | 今年度の課題と授業改善策 | |
| | 学習上・指導上の課題 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | 【学習上の課題】基礎学力の定着。理科の平均点を向上させることが課題。 【指導上の課題】教員側が、学習内容に沿ったICT機器の活用を行い、児童の学力向上を目指す。 | ⇒ 朝自習「基礎学習の時間」を活用して、通年で国語の書きと計算の基礎問題に取り組む。全国学力・学習状況の正答率の全体的な向上を目指す。「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目についても肯定的な回答を増やすため、各担任の授業改善を推進する。 |
| 思考・判断・表現 | 【学習上の課題】授業で「個で考える時間」を十分に確保し、個別最適化された学習を展開する。 【指導上の課題】ミライシード「オクリンク」「ムーブノート」を効果的に活用し、学習の理解度を教師側で適宜把握する。 | ⇒ 全国学力調査の国語「A話すこと・聞くこと」の項目では、埼玉県の平均を下回った問題があったので、日々の授業の中で、「話す力」「聞く力」を高められるような授業展開を行っていく。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目について、5・6年生で多くの肯定的な回答を得られた。今後も、その数値の維持を目指すために、学校全体で自主学習の取組を進める。 |

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
<小6・中3>(4月~5月)

| | | |
|----------|-------|---|
| ⑤ | 評価(※) | 調査結果 授業改善策の達成状況 |
| 知識・技能 | B | 年間30回の朝自習「基礎学習の時間」を活用し、通年で国語の書きと計算の問題に取り組み、基礎的な書く力・計算する力を高めることができた。市学調の正答率についても、向上した。学校課題研究で、「自ら課題を発見し、協同的に学びを深めることができる児童の育成」に取り組んだことで、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目について、小6の肯定的な回答が高い数値となった。小6の実践を他学年に広め、学校全体で授業改善に取り組んでいく。 |
| 思考・判断・表現 | B | 全国学力調査の国語「A話すこと・聞くこと」の項目では、埼玉県の平均を下回った問題があったので、日々の授業の中で、「話す力」「聞く力」を高められるような授業展開を行っていく。R6年度さいたま市学習状況調査の「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目については、今後工夫が必要である。小5で学習計画の立て方を再確認し、家庭学習の取り組みを推進していくことが来年度の教育活動につながると考える。 |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

| | | |
|----------|---|--|
| ② | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | 国語の知識・技能、(1)言葉の特徴や使い方に関する事項においては、良好な結果であったが、(2)情報の扱いに関する事項については、課題が見られた。情報と情報の関連付けや語句と語句の関係の表し方を理解し、活用することに課題があり、情報活用の視点を持ちながら指導改善をしていく必要があると考えられる。算数の知識・技能は、良好な結果であった。個別の領域では、特にC変化と関係で良い結果が得られた。 | |
| 思考・判断・表現 | 国語の思考・判断・表現、B書くことでは、良好な結果であったが、個別の問題「目的や意図に応じて、事実・感想・意見とを区別して書く」では、やや課題が見られた。今後は、国語の授業だけでなく他教科においても、事実・感想・意見とを区別して書くことを指導していく。算数の思考・判断・表現は、良好な結果であった。しかし、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、記述する問題では、無解答率が高かったため、同様の問題を繰り返し学ぶ機会や解答の仕方についても今後指導していく。 | |

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

| | | |
|----------|--|--|
| ④ | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | R6年度さいたま市学習状況調査「国語「知識・理解」では、全体的に良い正答率であった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、高い数値を残すことができた。言葉の特徴や使い方に関する事項については、学校として高い正答率を残すことができていた。 R6年度さいたま市学習状況調査「算数の「知識・理解」においては、小学校段階で知識・理解を定着させるために、低学年から継続的な指導をしていく必要がある。 | |
| 思考・判断・表現 | R6年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」で、国語は、話すこと・聞くことと読むことに一部課題が見られた。算数では、数と計算とデータの活用が課題となっている。学校全体として、国語では物語や説明文に触れる機会を増やし、内容を読み取る力を高める指導をしていくことが必要になってくる。また、算数では、業前の基礎学習の時間を活用し、基礎的な計算問題を多く解き、正答率を上げていく必要がある。 | |

| | | | |
|----------|-------|---|-------------|
| ③ | 中間期報告 | | 中間期見直し |
| | 評価(※) | 授業改善策の達成状況 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | B | 毎週金曜日の朝自習「基礎学習の時間」に、国語の漢字・算数の計算などの学習に取り組むことができていた。また各教科の授業においても、振り返りの時間を設定し、児童が自分の学んだことを言語化したり、担任が学習計画の見直しを行ったりすることが習慣化されてきている。 | 変更なし |
| 思考・判断・表現 | B | 全校で自主学習に取り組む、自分で課題を決めて学習を進め、表現する力を定着させている。また自分の考えや意見をノートに書き残す方法だけでなく、オクリンクや共同編集アプリ等に入力し、学級全体で共有するなど、表現力の向上に取り組むことができていた。 | 変更なし |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)